

2015年3月期 第1四半期決算発表後 電話カンファレンス
主な質疑応答

日時：2014年7月31日（木）15:00～16:00

応答者：代表取締役 専務執行役員 瀬川達生

1. トクヤママレーシアの太陽電池グレード多結晶シリコン（第2期プラント）について

Q：当初の見立てよりも1カ月遅れたということで、これは深刻なメカニカルな問題ではなくて、ただズレているだけなのか、その背景をご説明いただけますか。

A：一部はメカニカルな調整です。さらにこの事業で生き残っていくためにはコスト競争力と安定した品質、この二つを両立していかないと伸びていかない、そういうことから、試運転の最終段階で機械の調整を確認し、かつ品質の安定性を維持するためのいろんな手立てを講じる必要があるということで、当初の予定より伸びてしまったということです。（補足：予算上では2カ月遅れ）

Q：9月には営業運転を開始されるということで、稼働率のこの先の上がり方、フル生産になる時期や、その目途はいかがでしょうか？

A：最初は半分強から入っていくけれども、それを徐々に上げていきます。年が明けて3カ月間で、いろんなトライをやって、来年度、2015年度からはフル生産で入っていくようにしていきたいと思っています。

2. トクヤママレーシアの半導体グレード多結晶シリコン（第1期プラント）について

Q：来年度中のサンプル出荷に向けた今の進捗のアップデートをいただけますか？

A：今のところ、当初見込んでいた改造が順調に進んでいます。機械の調整を行いつつ、同時に反応条件をチューニングしていきます。

Q：根本的な問題点はもう発見されたと思っていいですか？

A：基本的な原因究明は、現地サイドから概ね終えているという報告を受けています。

Q：トクヤママレーシアの立ち上げが遅れた場合に、減損チェックはありますか？

A：トクヤママレーシアとして、あるいは第1期、第2期プラントそれぞれについて、定期的に減損の兆候の確認を行い、会計士と協議しています。今のところそれには該当しておりません。

3. 業績について

Q：費用削減に関しては昨年度かなり削られ、その反動で今期からは修繕費などが増える

と期初に説明されていまして。今回の業績予想修正では、石炭価格の見通しなどが下がってきたのでこれが期初予想に比べ費用削減となってきたのか、他に期初の見方と変わってきたものがあるのか、この先も含めて考え方をご説明いただけますか。

A：費用削減は、この第1四半期に期初予算比で約3億円削減ができております。年間を通じて10億円位は貢献してくれるだろうということも踏まえて予想を立てております。石炭価格が下がったこともその一部に取り込まれています。

Q：通期で20億円営業利益を増額しているうちの半分くらい(約10億円)は費用削減で、それが石炭を中心としたものということですね。

A：そうです。

Q：営業利益は第1四半期の55億円がピークで、逆算すると第2四半期が45億円、下期は利益が減っていく予想になっています。これはマレーシアが9月以降立ち上がってきて、償却負担が増えてくるため、それ以外はあまり基調は変わらないという作り方なのか、もっと何か大きな経費の増え方を織り込んで第1四半期がピークで利益が落ちていくということなのか、考え方を教えてください。

A：上期、通期の見込みは、ご指摘の通りマレーシアの立上げというのが大きなインパクトを与えています。それに加えて国産ナフサの価格が高止まって、どうも71,000円台を維持していただくだろうということを考えると、販売価格是正効果が薄れていくということもあります。

Q：営業外収支が通期で15億円改善している理由は何でしょうか？

A：営業外については、第1四半期を終えて見直し、年度を通じて15億円くらいの改善は可能であろうということです。

Q：支払利息が第1四半期に11億6千万円位あるのですが、年間ベースはこれを4倍したレベルと考えておけばいいですか？

A：そうです。

Q：来年度の営業外収支についてはどう考えたらいいですか？

A：営業外収支については、特に今年度は劣後ローンにより支払金利の負担が増えており、来年度も同程度の営業外収支が継続すると思います。

4. 各事業について

Q：セメントの状況ですが、工事遅れの影響というのは上期の分だけを減額されています。これが下期に出てくるリスクはないのでしょうか？

A：工事遅れの影響ですが、第1四半期に、セメントの出荷が予算比ではかなり滞ってはいるのですが、今後改善していく兆しが現れつつありますので、下期の修正は必要ないと判断しました。

Q：特殊品の多結晶シリコン以外の製品の前年同期比での損益の動き方を教えてください。

A：乾式シリカ、窒化アルミ、電子工業用高純度薬品はいずれも増収となっています。

Q：国産ナフサ価格が上昇し、塩ビモノマー、塩ビ樹脂ともに価格は厳しいというコメントがありましたが、状況を教えてください。

A：塩ビモノマーは、第1四半期に輸出価格が上昇したことで赤字幅が相当減額されていますが、塩ビ樹脂は、昨年秋に値上げを打ち出して、今年度は新しい価格で販売しています。その後4000円、5000円と国産ナフサの価格が上がってきているので、これが第2四半期以降ネガティブなインパクトを与えるのではないかと懸念を今回の修正に反映させました。

以上